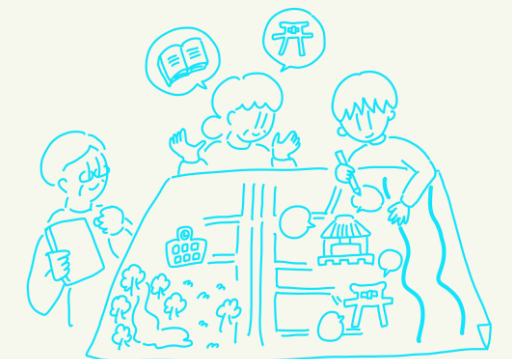
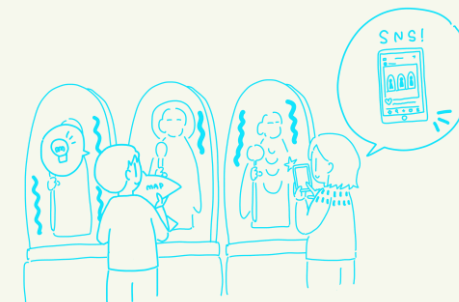
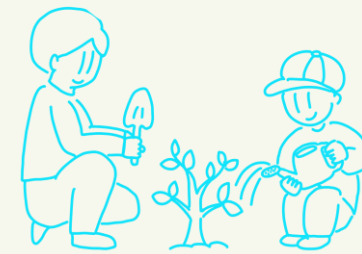
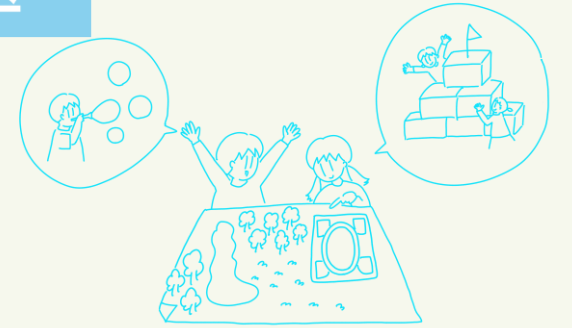
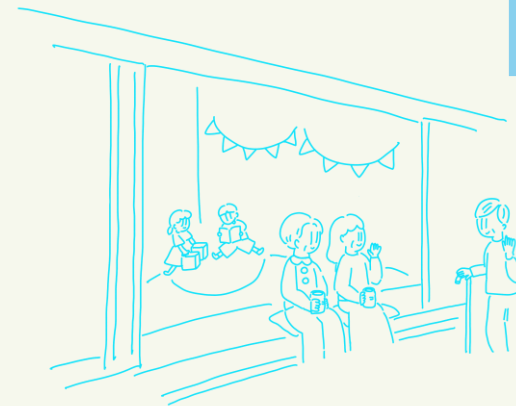
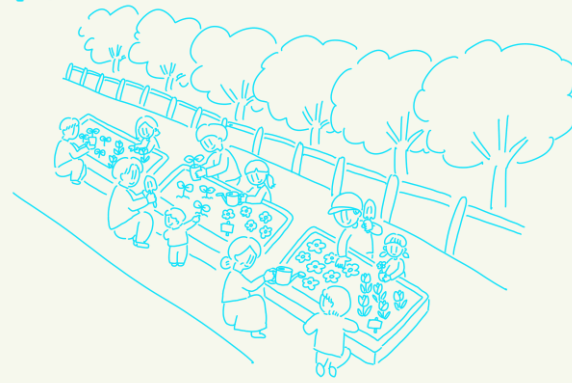


草加市 コミュニティプラン SOKA CITY COMMUNITY PLAN



草加川柳地区

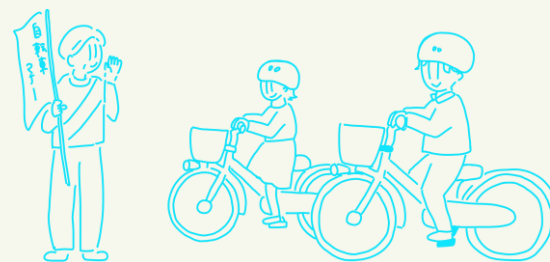


草加川柳地区コミュニティプラン 2023年11月

発行：草加市都市整備部都市計画課

〒340-8550 埼玉県草加市高砂1丁目1番1号

TEL：048-922-0183 FAX：048-922-3145



I はじめに

- 1. 「コミュニティプラン」とは？ 2
- 2. コミュニティプランをつくる際に大切にしてきたこと 2
- 3. コミュニティプランが生まれるまで 3

II 地区がめざすミライ

- 1. 地区の現状と課題 6
- 2. 地区の将来イメージ 10
- 3. コミュニティプランの柱となるテーマ 12

III ミライの実現に向けたプロジェクト

- 1. プロジェクトページの見方・使い方 16
- 2. ミライの実現に向けたプロジェクト 17

IV プロジェクトの実現に向けて

- 1. プロジェクトを実現していくために 42
- 2. 実現のための話合いの場「円卓会議」 42
- 3. プロジェクトを実現していく4つのポイント 45

V 市民と市の協働のまちづくりをめざして

- 1. プロジェクトに関連する市の施策・事業 56

テーマ1 つながり・支え合い・居場所

- プロジェクト01 川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり 18
- プロジェクト02 子ども食堂の活動を拡大してみんなの居場所にしよう 20
- プロジェクト03 柿木町の区民館を活用した身近な居場所づくり 22

テーマ2 歴史・文化・自然

- プロジェクト04 子どもが地域を学ぶ野菜づくりと収穫祭体験 24
- プロジェクト05 多世代による柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR 26
- プロジェクト06 四季の移ろいが感じられる魅力的なそうか公園づくり 28
- プロジェクト07 葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり 30
- プロジェクト08 地区の生態系と触れ合い・学ぶ屋外イベントの開催 32

テーマ3 にぎわい・地域連携

- プロジェクト09 そうか公園を地域のシンボルに！ 34
- プロジェクト10 地域の個人や団体間で情報交換やコラボができる場づくり 36
- プロジェクト11 地域で連携して自転車マナーの向上 38

I はじめに

1. 「コミュニティプラン」とは？
2. コミュニティプランをつくる際に大切にしてきたこと
3. コミュニティプランが生まれるまで

1. 「コミュニティプラン」とは？



草加市では、平成 29 年に今後 20 年間のまちづくりの指針となる『まちづくりの基本となる計画』を作成しました。その中で、市内を 10 地区のコミュニティブロックに分け、地区ごとの将来像となる『まちづくり方針』を掲げています。

コミュニティプランは、みなさんが住む草加川柳地区がめざすミライと、それを実現するためのアイデアをみんなで出し合い、まちづくりのアクションプランとしてまとめたものです。プランの中には、みなさんの生活の中で、一人でも、仲間と一緒にでも始められる、まちをより良くしていくためのアイデアが詰まっています。

まちづくりは特別なことではなく、日常のちょっとした気づきから、小さな一歩を踏み出すことで始めることができます。そして、一人ひとりの想いで始めた取組が重なり、共感する人を増やし、活動の輪を広げ、新しい地域活動やまちづくりにつながっていきます。

そんなミライが広がっていくことを願って、市民・行政など地域に関係する人たちの「共創」でこのプランをつくりました。このプランが一人ひとりにとって、自分の住む地域に興味を持ち、考え、活動するきっかけとなりますように。

このプランを片手に、草加川柳地区のミライを一緒に作りませんか？

2. コミュニティプランをつくる際に大切にしてきたこと

私たち草加川柳地区では、次のポイントを大切に、このプランをまとめてきました。

① 草加川柳地区ならではの宝モノや問題モノから話し合う

地区別懇談会などでの話し合いの中では、草加川柳地区ならではの宝モノ（人・想い・つながり・場所・歴史等）や、まちの問題モノ（抱えている課題）などをみんなで出し合い、プランの中に盛り込みました。

② 「住んで良かった」「住み続けたい」と思える将来イメージを共有する

①の地区の宝モノ・問題モノを踏まえながら、まちの将来がどのような姿になってほしいか（将来イメージ）を考え、その実現のために必要な取組を考えました。

③ 小さな一歩から、協力の輪を広げ、本当に実現していくステップまで描く

一人ひとりの「こうなったらいいな」「こんなことがしたい」という想いが、行動につながるよう、プロジェクト毎に実現に向けた具体的なステップをまとめました。

3. コミュニティプランが生まれるまで

コミュニティプランの作成に当たっては、公募で集まった地域の皆さんを中心に、令和3年度から2年間にわたり、地区別懇談会を通じて話し合いを重ねてきました。また令和4年度の後半には、2つのモデルプロジェクトを実際に試行し、その成果や課題を踏まえながら、まちのミライを実現するためのプランをとりまとめました。



II 地区がめざすミライ

1. 地区の現状と課題
2. 地区の将来イメージ
3. コミュニティプランの柱となるテーマ

1. 地区の現状と課題

地区には大きなことから小さなことまで、たくさんの良いところと改善すべきところがあります。
 ここでは、地区別懇談会やインタビューの中で、地域の皆さんからいただいた意見を「地区の現状と課題」として整理し、掲載しています。

枠線あり・・・地区の現状や良いところ
 枠線なし・・・地区の課題や改善点

子どもや子育てに関すること

地域ぐるみで子育てをすることができれば、地域のコミュニティを活性化することや、子どもが将来まちを好きになることに繋がると思う

地区内の子ども(地区/草加市)

0-5才 **757人** 6-14才 **1,637人**
 10,316人 18,553人

参照：住民基本台帳（令和4年1月時点）

子どもを遊ばせられる施設が少なく、あったとしても新しく転入してきた人は利用しづらい状況である

ボール遊びができる場所が少ないため、小さい子どものちょっとしたボール遊びもなかなかできない

ママ友とお茶ができるカフェが近くにないため、親子連れで交流できる場や機会が増えると良い

お母さんたちの交流の場が少ない。
 子育ての悩みを気軽に相談してアドバイスがもらえる場があるといい

少子高齢化に関すること

独居の高年者の方が増えており、地域での支え合いの方法を考える必要がある

元気な高年者が活躍できる場がもっとあるといい

高年者と若い世帯の交流機会を増やせるといい

地区内の高年者(75歳以上)

2,450人
1,611人
 H28年 R17年

参照：住民基本台帳（令和4年1月時点）

地域のコミュニティを継承する人材が足りない

町会・自治会で行っている地域の見守り活動は、メンバーの年齢層が高く後継者がいないため継続できなくなる不安がある

にぎわいや交流に関すること

町会・自治会活動が活発な地域であるため地域で交流するメリットを伝えられると良い

地区内の活動団体

町会 **7組織**
 NPO法人 **2団体**

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成29年）

都心のベッドタウンとして、様々な人が暮らしている点を生かしたい

つながりが強いこの地域の伝統をずっとつないでいきたい

既存のコミュニティが成熟していて、つながりが深いのはこのまちの良いところ一方で、新しく暮らし始めた方が輪の中に入りにくい点はどうかしたい

子どもの人数が少ない分、子どもや保護者間で濃い付き合いができるのは良いところ

様々な属性の人々が集い、交流し合える場所があると良い

新たな資源を生み出すのは難しいため、みんなのアイデアで今ある場所や資源を活用・再発見・再認識することが重要

企業も一緒に交流できる場が必要

以前と比べてご近所でのコミュニケーションが少なくなってきた気がする

地区の将来を考えるために世代を超えた地域連携が求められる若者が求めるものを知りたい

新しく暮らし始めた住民には地域コミュニティが見えにくいいため、情報発信に力を入れる必要がある

まち全体の活気が少し足りない気がする若者や高年者など、地域の人の力を生かせると良い

移動や交通 に関すること

安心して車椅子やベビーカーを利用できるようになると良い

道路の幅員が狭いエリアがある

自転車のマナーが悪い

東埼玉道路や外環等が通っており、車のアクセスが良く利便性が良い
一方で交通渋滞が多い区間があるため、その点は課題である

葛西用水沿川の道路は、
整備が徐々に進んでいる

バスが複数路線通っているエリアがある一方で、
バスが少なく不便なエリアもある

市内の年間交通事故発生件数



参照：草加市交通対策課提供資料

生活環境 に関すること

買い物をする場所が少し離れている等、買い物が不便な地域があり、
そういった地域では高年者を始め買い物難民のリスクがある

町会・自治会で週に一回防犯パトロールを実施しているが、防犯面はまだ弱いように感じる

地域の人が気軽に集えるカフェがあるといい

車通りが少なく、静かな環境が良い
また、視界を遮るような高い建物が少なく、低層の住宅地であるため眺望も良い

みどりや景観 に関すること

歴史ある葛西用水を大切にしたい。
用水を活用して地域の交流・活性化を促せる可能性がある

公園や自然があり、生き物の生息を感じられ、
柿木町のエリアは特に四季が感じられる

自然に関する多くの活動が行われている

柿木は活用できる田んぼもあるし、
稲作体験をやりたい人もいる

柿木地区の農地の景観、そうか公園や
葛西用水等の水と緑の景観は良いところ

用水路の整備が進み、きれいになってきている。一方で葛西用水は釣りや川遊びができず、子ども
向けの場所ではない印象であるため、地区の特徴である自然と触れ合える環境があると良い

市内で一番大きいそうか公園がある
一方ボールを使用できる公園や広場が少ない

農業の後継者が不足しており、
同業者が少ない

地区内のみどりの量

生産緑地面積 **0.4 ha**

公園箇所数 **38 箇所**

参照：草加市都市計画マスタープラン（平成29年）

歴史や文化 に関すること

コミュニティを守るためにも、
地域のお祭りを盛り上げて継続していきたい

この地区には
花火大会がある

地区内の
市指定文化財

4 箇所

(令和4年時点)

地区内の
埋蔵文化財包蔵地

4 箇所

(令和4年時点)

輪番制の負担が大きいため負担を小さくして、
地域みんなが楽しめるお祭りになりたい

川柳中学校・川柳小学校・神社・お寺など、
地域の伝統や歴史、文化が残っている

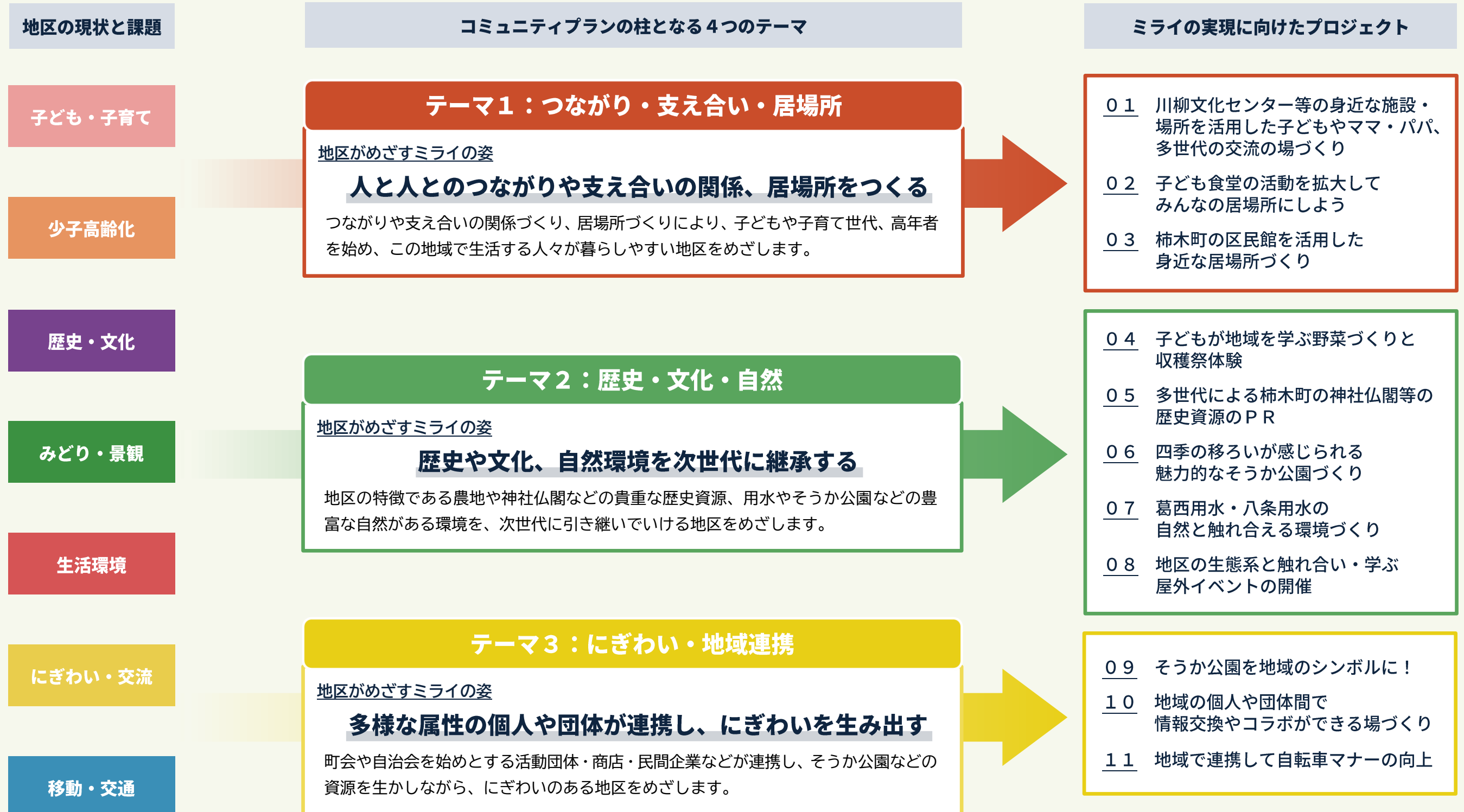
2. 地区の将来イメージ

地区の良いところを生かし、問題を改善していくことで、地区の様々な場所で生まれる将来イメージを描きました。



3. コミュニティプランの柱となるテーマ

ここでは、地区の現状と課題、将来イメージとのつながりを踏まえて、「コミュニティプランの柱となる3つのテーマ」を設定しました。そして、そのテーマごとの『地区がめざすミライの姿』を実現するために、11のプロジェクトを立案しました。



III ミライの実現に向けたプロジェクト

1. プロジェクトページの見方・使い方
2. ミライの実現に向けたプロジェクト

1. プロジェクトページの見方・使い方

ここでは、18ページ以降に掲載しているプロジェクトページの「見方」と、本冊子の後半の内容も含めた「使い方」をご説明します。

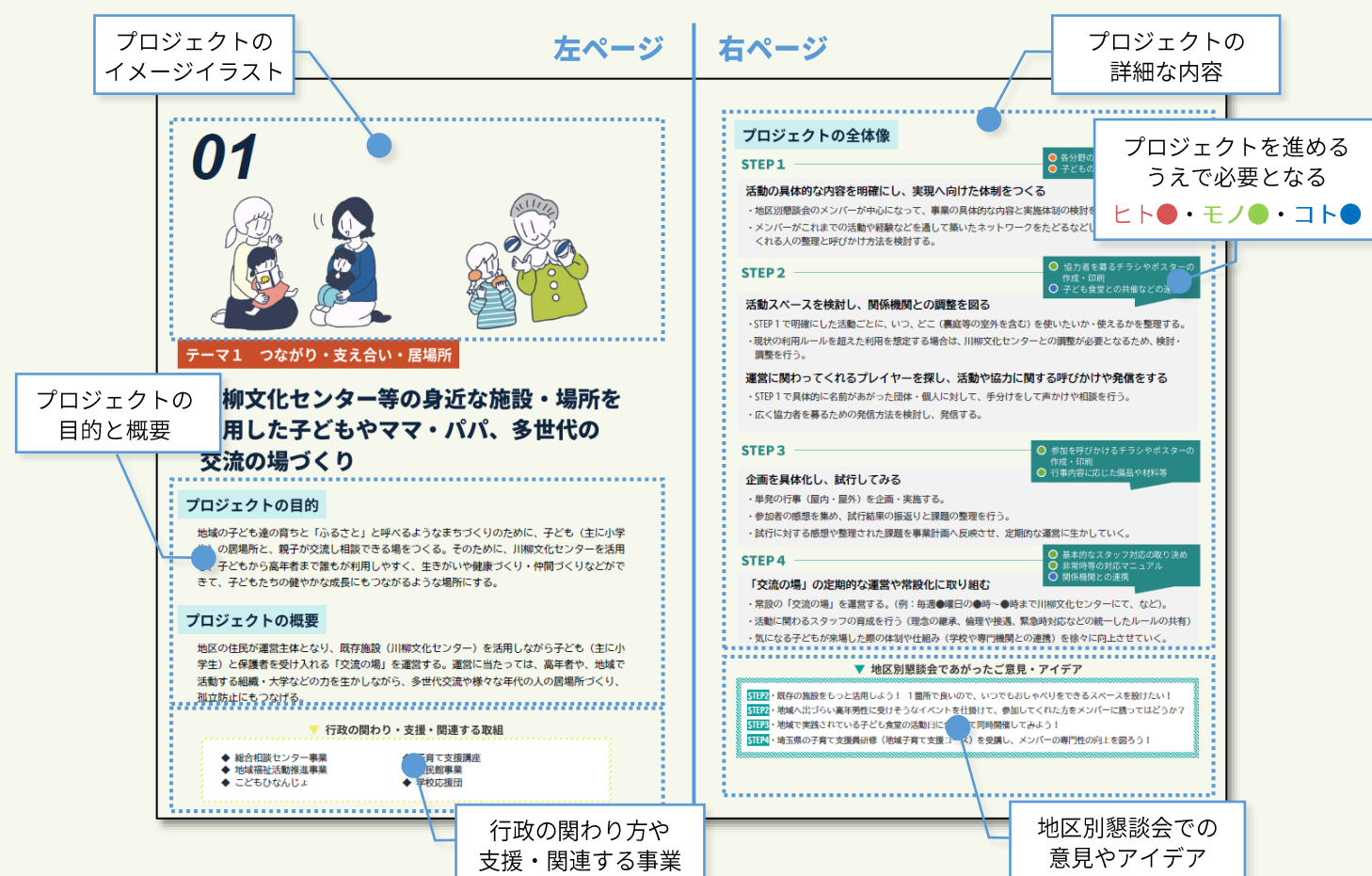
地区の様々な場所で行われる、多様な主体によるプロジェクトを掲載していますので、ご自身が『できること』や『関わりたいこと』を探してみましょ。

<プロジェクトページの見方>

下の図のように、1つのプロジェクトについて見開き2ページで掲載しています。

- ① まずは左ページを読み、プロジェクトの概要を確認
- ② 次に右ページを読み、プロジェクトの詳細な進め方を確認

という流れで読み進めてください。



<使い方>

読み進めるなかで、『主体的に参加したい!』『取組をサポートしたい!』というプロジェクトが見つかったら、

- ① 円卓会議に参加し、プロジェクトの内容について話し合ってみる
- ② プロジェクトページの内容をもとに、45~53ページの情報を活用して取組を進める

48~51ページには、取組を進める上で参考となる様々な情報を掲載しています。プロジェクトの実現性・持続性を高めるためのツールとして活用してください。

2. ミライの実現に向けたプロジェクト

次ページ以降では、「地区がめざすミライの姿」を実現するために、地区別懇談会での話し合いによって生まれた11のプロジェクトの詳細について掲載しています。

このプロジェクトの一つひとつは、地域のみなさんのまちへの想いや『こんなことをやってみよう!』といった意欲から生まれたものです。

テーマ1 つながり・支え合い・居場所

- プロジェクト01 川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり
- プロジェクト02 子ども食堂の活動を拡大してみんなの居場所にしよう
- プロジェクト03 柿木町の区民館を活用した身近な居場所づくり

テーマ2 歴史・文化・自然

- プロジェクト04 子どもが地域を学ぶ野菜づくりと収穫祭体験
- プロジェクト05 多世代による柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR
- プロジェクト06 四季の移ろいが感じられる魅力的なそうか公園づくり
- プロジェクト07 葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり
- プロジェクト08 地区の生態系と触れ合い・学ぶ屋外イベントの開催

テーマ3 にぎわい・地域連携

- プロジェクト09 そうか公園を地域のシンボルに!
- プロジェクト10 地域の個人や団体間で情報交換やコラボができる場づくり
- プロジェクト11 地域で連携して自転車マナーの向上

01



テーマ1 つながり・支え合い・居場所

川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり

プロジェクトの目的

地域の子どもの育ちと「ふるさと」と呼べるようなまちづくりのために、子ども（主に小学生）の居場所と、親子が交流し相談できる場をつくる。そのために、川柳文化センターを活用し、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすく、生きがいや健康づくり・仲間づくりなどができ、子どもたちの健やかな成長にもつながるような場所にする。

プロジェクトの概要

地区の住民が運営主体となり、既存施設（川柳文化センター）を活用しながら子ども（主に小学生）と保護者を受け入れる「交流の場」を運営する。運営に当たっては、高齢者や、地域で活動する組織・大学などの力を生かしながら、多世代交流や様々な年代の人の居場所づくり、孤立防止にもつなげる。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 子育て支援講座
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 公民館事業
- ◆ こどもひなんじょ
- ◆ 学校応援団

プロジェクトの全体像

STEP 1

- 各分野の得意技を持つ高齢者
- 子どもの育ちに関わる資格保有者

活動の具体的な内容を明確にし、実現へ向けた体制をつくる

- ・ 地区別懇談会のメンバーが中心になって、事業の具体的な内容と実施体制の検討を行う。
- ・ メンバーがこれまでの活動や経験などを通して築いたネットワークをたどるなどして、運営に関わってくれる人の整理と呼びかけ方法を検討する。

STEP 2

- 協力者を募るチラシやポスターの作成・印刷
- 子ども食堂との共催などの連携

活動スペースを検討し、関係機関との調整を図る

- ・ STEP 1 で明確にした活動ごとに、いつ、どこ（裏庭等の室外を含む）を使いたい・使えるかを整理する。
- ・ 施設利用におけるルールを守ることを前提として、これまでに実績のない活動を想定する場合は、施設との調整が必要となるため、早めに相談・調整を行い、施設との信頼関係を深めながら具体的に実現できる内容や方法を検討する。

運営に関わってくれるプレイヤーを探し、活動や協力に関する呼びかけや発信をする

- ・ STEP 1 で具体的に名前があがった団体・個人に対して、手分けをして声かけや相談を行う。
- ・ 広く協力者を募るための発信方法を検討し、発信する。

STEP 3

- 参加を呼びかけるチラシやポスターの作成・印刷
- 行事内容に応じた備品や材料等

企画を具体化し、試行してみる

- ・ 単発の行事（屋内・屋外）を企画・実施する。
- ・ 参加者の感想を集め、試行結果の振り返りと課題の整理を行う。
- ・ 試行に対する感想や整理された課題を事業計画へ反映させ、定期的な運営に生かしていく。

STEP 4

- 基本的なスタッフ対応の取り決め
- 非常時等の対応マニュアル
- 関係機関との連携

「交流の場」の定期的な運営に取り組みながら、将来の常設化を目指す

- ・ 定期的な運営（例：毎週●曜日の●時～●時まで●●にて、など）により「交流の場」の定着を図り、長期的には、運営の実績や関係機関との信頼関係を基盤とした、他施設も含む活動場所の確保、「交流の場」の常設化を目指す。
- ・ 活動に関わるスタッフの育成を行う（理念の継承、倫理や接遇、緊急時対応などの統一したルールの共有）
- ・ 気になる子どもが来場した際の体制や仕組み（学校や専門機関との連携）を徐々に向上させていく。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP2 既存の施設をもっと活用しよう！ 1箇所が良いので、いつでもおしゃべりをできるスペースを設けたい！
- STEP2 地域へ出づらいうちの高齢男性に受けそうなイベントを仕掛けて、参加してくれた方をメンバーに誘ってはどうか？
- STEP3 地域で実践されている子ども食堂の活動日に合わせて同時開催してみよう！
- STEP4 埼玉県の子育て支援員研修（地域子育て支援コース）を受講し、メンバーの専門性の向上を図ろう！

02



テーマ1 つながり・支え合い・居場所

子ども食堂の活動を拡大して みんなの居場所にしよう

プロジェクトの目的

地域で実践されている子ども食堂の活動を回り、子育て中の保護者の育児負担軽減と、すべての人にとって息抜きができる場をつくる。また、悩みを抱えた親子などが心を落ち着けて過ごせる場をつくることを通して、子どもの育ちを支えることをめざす。

プロジェクトの概要

コミュニティプランにおける他プロジェクトとも連携しながら、既存の活動の拡大を図り、子育て中の保護者の育児の負担軽減とすべての人にとって息抜きができる場をつくる。参加がしやすい「イベント」を入口として、悩みを抱えた親子にとっても心を落ち着けて過ごせる場を「居場所」を運営する。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 都市計画マスタープラン事業
- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 子育て支援講座
- ◆ 総合福祉センターであいの森
- ◆ 空き家バンク
- ◆ 男女共同参画社会推進・支援事業
- ◆ 公民館事業

プロジェクトの全体像

STEP 1

- 「居場所」の先行事例などの情報
- 「居場所」の運営に必要な専門的な知見からのアドバイス

拡大する事業を明確にし、課題を整理する

- ・子ども食堂の活動を拡大する内容として、同日開催する「イベント」の充実と、悩みを抱えた親子などが、心から落ち着いて過ごせる「居場所」も運営するイメージを具体化する。
- ・「居場所」の運営については事例研究などを行い、実現へ向けた課題を洗い出す。

STEP 2

- 資金集めが得意な人
- 法人化が得意な人

事業計画を作成し、運営する体制づくりや人材の確保に取り組む

- ・「イベント」については、「プロジェクト01」プロジェクトとの連携により充実を図ることを基本とする。
- ・「居場所」の運営に関わってくれる人を整理し、呼びかける。資金集めや法人化の方法、関係機関との連携体制の構築を含む「居場所」開設の実務については、関係課の協力も依頼する。

STEP 3

- 空き家など物件の提供者
- 空き家情報、所有者の情報
- 居場所の運営に必要な備品類

実施場所を確保し、運営に関わってくれるプレイヤー探しと呼びかけを行う

- ・「イベント」は、「プロジェクト01」のメンバーと連携し、川柳文化センターを中心とする。
- ・「居場所」の実施場所として、空き家の活用を視野に入れて確保を図る。具体的に名前をあげられる所有者（候補）に対して、手分けをして相談や声かけを行う。
- ・空き家バンクの活用など、関係課の協力も依頼する。

- 基本的なスタッフ対応の取り決め
- 非常時等の対応マニュアル
- 関係機関との連携

STEP 4

活動を拡大した子ども食堂の運営と、スタッフの力量の向上を図っていく

- ・「イベント」や食堂開催中に気になる参加者がいた場合は相談に乗り、必要に応じて「居場所」への案内を検討する。
- ・「居場所」の運営は日々の振返りを行い、その後の活動とスタッフの力量の向上へつなげていくことを重視する。そのために、スタッフ間の情報共有と人材育成に力を入れる。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1・イベントを通じて食堂への参加のハードルを下げて、身近に相談できる機能も担うことをめざしたい！
- STEP2・現在は完全なボランティアで行っていることを、将来的には収益事業として行うことをめざしていきたい！
- STEP3・例えば空き家を活用し、安全で安心な場として地域に提供していけないだろうか？
- STEP4・メンバーのネットワークを活用して、元幼稚園教諭、潜在保育士などに声をかけて仲間を増やそう！

03



テーマ1 つながり・支え合い・居場所

柿木町の区会館を活用した身近な居場所づくり

プロジェクトの目的

高年者が集まっておしゃべりやお茶ができる身近な場所をつくり、家に閉じこもりがちな高年者の交流の機会を増やしていく。いずれは高年者に限らず、世代を問わず集まれる場所にしていき、子どもや子育て世帯、若い人が集まる場所を充実させ、地域交流が盛んな元気なまちをめざしていく。

プロジェクトの概要

柿木町の区会館に、気軽に立ち寄れる交流の場、ちょっとした買い物の場を設け、高年者又は多世代が集まり、おしゃべりやお茶ができる身近な場をつくる。自宅から歩ける範囲に気軽に立ち寄れる居場所をつくるため、区会館のほかにも、民家の庭先なども活用していく。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 生活支援体制整備事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 介護予防把握事業
- ◆ 認知症サポーター養成講座
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ オレンジカフェ（認知症カフェ）
- ◆ 公民館事業
- ◆ 総合福祉センターであいの森
- ◆ ふれあい・いきいきサロン

プロジェクトの全体像

STEP 1

- 居場所づくりの運営協力者
- 民家や庭先の提供者

中心メンバーと運営協力者を募集する

- ・ 円卓会議を通じて、地域住民から実行メンバーを募集する。
- ・ 実行メンバー以外にも、民家の庭先などの場所を提供してくれる人を募集する。
- ・ 市社協の事業と連携してプロジェクトを立ち上げ、町会で運営することも考えられる。

STEP 2

- 区会館の利用時間や費用負担の調整
- 集客に向けたイベント等の企画

身近な実施場所を検討する

- ・ 柿木町内には、柿木公民館以外に区会館が3か所あり、使い勝手が良い。特に、女体神社入口の第四区会館は集まりやすく、最初の活動場所として第一候補とする。
- ・ 古民家を上手に再生したお店もあるが、維持コストがかかるため、古民家にはこだわらない。

気軽に立ち寄れる交流の場を企画する

- ・ ちょっとしたものを販売するなどして、人が集まるきっかけをつくる。
- ・ 例えば、農家や各家庭で育てた野菜の100円マルシェを開いたり、おしんこを作っておすそ分けしたりする。

STEP 3

- 居場所運営のボランティア

地域住民の居場所をつくる

- ・ 最初は月又は週に1回、お買物ついでにお茶を飲みながら井戸端会議ができる場を設け、地域交流の場として定着させていく。気楽に同世代で集まる場を曜日やブースで分けるなどの工夫をする。
- ・ 居場所が定着していけば、利用者にあられやお茶菓子を持ち寄ってお茶をしてもらう。最初は無料でも、いずれワンコイン払ってでも行きたい場所に工夫していく。

STEP 4

多世代にとって身近な場所へと展開する

- ・ 高年者の居場所づくりからスタートし、いずれは一つの場所に多世代のグループがいて賑わうような、子どもや保護者など多世代が集まる情報交換の場所にしていく。
- ・ 居場所の管理や世話役は実行メンバーで行いつつ、利用者の中から運営に協力いただけるボランティアを募集して自主運営へと近づけていく。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・ 民家の軒下や縁側に集まって青空の下でやるくらいの気軽な場所から始めてもいい！
- STEP2 ・ パン屋さんに来てもらってちょっとした朝食ができるといい。料理教室もいいかもしれない！
- STEP2 ・ 買い物が不便な高年者向けに、お試して移動販売車を呼んで、人を集めてみてほしいかもしれない！
- STEP2 ・ 古民家への出店に関心のある飲食・販売業者が増えている。地域外のお店に参加を呼びかけてはどうか！

04



テーマ：歴史・文化・自然

子どもが地域を学ぶ 野菜づくりと収穫祭体験

プロジェクトの目的

地域の子どもが土に触れる機会が減っているため、自然や作物に触れる機会をつくることで、その大切さや地域の歴史を知って地域に根付く子どもを育てていく。豊穰を願う地域のお祭りや、収穫を感謝する秋のお祭りなど、農業体験と収穫祭を同時に体験することで、一連のお祭りの意味と地域の歴史を継承していく。

プロジェクトの概要

単なる収穫ではなく、芽が出るところから作物の成長過程を知る、体験企画とする。農家さんの協力を得て、子どもや親子に、野菜の作付けから収穫までを体験してもらい（「作育」で学ぶ）、豊穰祈願や収穫祭といったお祭りにも参加し、みんなで収穫したものを食べて地域交流を行う（「お祭り」で学ぶ）。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 都市農業育成・共生支援事業

プロジェクトの全体像

STEP 1

- 貸し農地の提供者
- 野菜づくりの指導者

農地の提供者や農業の指導者を募集する

- ・ 円卓会議メンバーを通して、地区内の休耕地や広い農地の一部を貸していただける方を募集する。
- ・ 作付けから収穫までの間には農業経験者の協力が必要なため、円卓会議を通じて知り合いの方に指導者としての協力も呼びかける。

STEP 2

- 体験内容の企画、栽培計画や負担費用等の年間計画

協力者とともに収穫体験の内容を企画する

- ・ 農業を教えられる人が年々減少しており、稲作は難しい。サツマイモやジャガイモ、カボチャなど、野菜づくりの体験とし、貸し農園・シェア畑のように、畑を提供して参加者に育ててもらう。
- ・ 収穫体験を“学びの場”と堅苦しく捉え過ぎず、だんだんと農業の楽しさを体験する機会にする。

STEP 3

- 参加者募集のチラシ
- 公民館や神社との調整

収穫体験の参加者を募集する

- ・ 参加者は地区内の親子とし、「いっしょにジャガイモ作りませんか！」のようなチラシを配布又は回覧し募集する。
- ・ いつも家庭で野菜を育てている家庭でも、野菜を持ち寄って一緒に収穫を楽しめるイベントとして、参加を促す。

野菜づくり体験を実施する

- ・ 貸し農園のように、参加者自らが農地を耕し、例えばジャガイモの種芋を植えるところから農作業を体験する。
- ・ 種植えから収穫までの間も、草むしりなど作業は農業経験者の方に指導をしていただき、農業の面白さと難しさを知る交流の機会とする。

地域での交流会を実施する

- ・ はじめは柿木公民館のお祭りやタイアップして、公民館で収穫した作物を調理して提供するなど、できることからスタートする。
- ・ いずれは豊穰祈願や収穫祭などの地域のお祭りや連携し、地域交流の場となるイベントにしていく。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・ 柿木で自作で農業を営む方が年々減少し高齢化も進んでいる。子ども達に農業の大切さを伝えたい！
- STEP2 ・ 「芽が出る」から作物の成長過程を体験して、食べ物の大切さを知ってほしい。食育ならぬ作育！
- STEP3 ・ 収穫祭での交流の様子はYouTube 配信し、柿木以外の地域や若い人に向けてPRしたい！

05



テーマ：歴史・文化・自然

多世代による 柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR

プロジェクトの目的

柿木には1500年来の歴史があると伝わっており、お祭りや神楽、神社仏閣など貴重な資源があるが、PR不足が地域づくりの課題の一つである。柿木の貴重な歴史資源をPRし、にぎわいと交流人口を創出することによって、将来的に地域経済が潤い、空き家活用やバス交通の充実などの地域課題の解決につなげていく。

プロジェクトの概要

神社仏閣や語り継がれてきた地域の歴史の価値を再認識し、イラストマップづくりやまち歩きなどのPRイベントを、高年者だけでなく多世代を巻き込んで行う。地域の子どもや大人が神社仏閣の癒しの空間に触れる機会を設け、その様子はインターネットやSNS等を活用して柿木町の魅力を発信する。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 観光推進事業
- ◆ 「ふるさと草加学習」の推進
- ◆ 公民館事業
- ◆ 文化遺産の発掘・保存・有効活用推進事業

プロジェクトの全体像

- 歴史の語り部、観光ボランティアなどの協力者
- 歴史や観光分野の専門家
- 神社やお寺

STEP 1

歴史資源に詳しい方や、情報発信が得意な若者を募集する

- ・ 円卓会議や町会・自治会を通じて、歴史資源に関心のある活動の中心メンバーを募集する。
- ・ 柿木町内でも十王堂や東漸院の仏像の価値が知られていない。柿木町の歴史資源の価値を再確認するため、神社やお寺、地域の歴史に詳しい方や観光ボランティア等に協力を呼びかける。
- ・ 円卓会議を通じて、若い世代へのSNS発信が得意な高校生にも協力を呼びかける。

柿木のPR戦略をつくる

- ・ 柿木の歴史本を参考に、歴史や観光の専門家を交えて、何をメインに柿木をPRするかの戦略を検討する。（東漸院、十王堂、女体神社、鎌倉時代からの伝承や、豊田姓の由来など）
- ・ 例えばパワースポット、願掛けスポットをエピソードと紐づけてPRする。（「女体神社の〇〇のお陰で元気になりました」など）

STEP 2

- イラストマップづくりの協力者（小中学生）

子どもたちによる「イラストマップ」をつくる

- ・ 地域の歴史を後世に継承していくため、高年者だけでなく、子どもも楽しめるイベントを開催する。
- ・ 子どもたちに歴史スポットのイラストを描いてもらい、柿木町の「まち歩きマップ」をつくる。

STEP 3

- 観光ボランティアなどの協力者

親子で歴史を学ぶ「まち歩き」を開催する

- ・ 子どもたちが描いたイラストマップを片手に神社仏閣を巡る、親子で参加できる「まち歩き」イベントを開催する。
- ・ まち歩きには歴史資源のガイド役として観光ボランティアの方にも協力いただき、地域の歴史や神社仏閣にまつわる伝承などを熱く語っていただく。

STEP 4

- SNSなど情報発信が得意な若い世代の協力者

柿木の魅力をSNSで情報発信・PRする

- ・ 「イラストマップづくり」や「まち歩きイベント」を若い世代向けに発信しPRするため、地域にある高校の生徒に協力を呼びかける。
- ・ 「まち歩きイベント」をライブ配信するなど、YouTubeやInstagramなどのSNSで、若い世代向けにPRする。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP3 ・ 「楽笑さんぽ」など神社仏閣を巡るコースなど下地は整っている。更なるPRのテコ入れが必要！
- STEP4 ・ 観光ツアーが組まれるほどの地域にしたい！地域が潤えば神社仏閣の保存活動の資金もまかなえる！
- STEP4 ・ 古くは往來のあった下妻街道などの歴史を、風化させず、語り継いでいきたい！

06



テーマ：歴史・文化・自然

四季の移ろいが感じられる魅力的なそうか公園づくり

プロジェクトの目的

地区の貴重な自然環境であるそうか公園の四季折々の魅力について、来園者が散歩しながら季節を感じることができるようにしていく。また、来街者が増えるように観光資源としての活用を考え、行政によるそうか公園のリニューアルでは官民が連携しながら、より良いそうか公園の実現に向けて取り組んでいく。

プロジェクトの概要

そうか公園の四季にまつわる情報を得ることができる掲示板・来園者の意見を集めることができる目安箱を作成する。園内の木々や植物にはネームプレート掲げ、それらの情報を集約したパンフレットを作成する。将来的には、市民主導による植樹ゾーンの設置や、四季にまつわるイベントの開催をめざす。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 都市計画マスタープラン事業
- ◆ 自然環境の調査と創出事業（そうか生きもの調査の実施）
- ◆ 緑化推進事業

プロジェクトの全体像

STEP 1

活動の中心メンバーを集める

- ・継続的に活動を行っていく必要があるため、活動の趣旨をよく理解し賛同するメンバーを、円卓会議や既存の組織を通じて少数精鋭で集める。

STEP 2

四季の見どころ掲示板・そうか公園目安箱を設置する

- ・来園者に園内の季節の見どころや場所、イベントの開催予定などを伝える掲示板を作成し、入口に設置する。掲示板は移動や更新がしやすいように、手書きなどの仕様で愛着の持てるデザインにする。
- ・来園者からの意見を吸い上げることのできる目安箱を設置し、市民参加型でそうか公園をより良い場所にしていく。

四季の植物のネームプレートを設置する

- ・園内の木々や草花、水草などの解説を記したネームプレートを作成し、掲示する。
- ・作成したネームプレートを活用して、地域の生態系を知るイベントなど、他のプロジェクトとの連携を図る。

- 材料や工具の準備
- 安全性の確保

STEP 3

四季のそうか公園パンフレットを作成する

- ・園内の植物の一覧表や位置、植物の解説などが記されたそうか公園のパンフレットを作成する。
- ・行政目線とは異なる、市民目線で四季の魅力を伝えることを目的としたパンフレットにする。

- デザインスキルに長けた人の協力
- パンフレットの印刷

STEP 4

地域住民による植樹ゾーンを設置し、住民で手入れする

- ・地域住民が植樹や植物の手入れをすることができるゾーンを設ける。
- ・学校のイベントとして植栽を管理するなど、地域連携の視点を持って緑化方法を検討する。

四季にまつわるイベントを開催する

- ・園内に多く植わっている桜などを観光資源として活用するためにライトアップイベントを企画する。
- ・市内の企業と協賛することで収益化を図り、備品のレンタル費用等に充てる。

- 苗木の準備
- 施設管理者との場所の協議
- イベント備品の準備

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP3 ・植物が日々変化していくなかで、パンフレットも更新できると良い！
- STEP3 ・バードウォッチングが人気の公園であるため、この要素も盛り込みたい！
- STEP4 ・駐車場周辺などには植樹が可能なゾーンもあるかもしれない！

07



テーマ：歴史・文化・自然

葛西用水・八条用水の 自然と触れ合える環境づくり

プロジェクトの目的

取組を通じて多世代交流や地域振興を図り、葛西用水・八条用水という固有の自然環境を持つ草加川柳地区ならではのライフスタイルを育む。また、子どもを中心とした幅広い世代が、ありのままの自然に触れ合い、楽しめる環境を創出していけるように、市民や関係団体が連携し、各々の役割を明確化する。

プロジェクトの概要

町会・自治会による八条用水沿いのプランター設置運動を拡大しながら、散歩が楽しめる空間を整備していく。葛西用水では、生い茂った雑草を刈り、ゴミを清掃することで、市民が自然と触れ合える親水空間を整備する。将来的には用水沿いに新たな休憩所の設置をめざす。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 緑化推進事業
- ◆ 自然環境の調査と創出事業（葛西用水に生息する絶滅危惧種キタミソウの保全）
- ◆ 中小企業振興事業
- ◆ 商店街元気倍増事業
- ◆ 市北東部スポーツ推進地区整備事業（柿木）

プロジェクトの全体像

STEP 1

町会・自治会を中心に活動メンバーを集める

- ・プランターの手配や助成の手続、管理団体との協議などを担う活動メンバーを、町会・自治会を中心としたネットワークの中から集める。
- ・まずは活動趣旨に賛同する仲間を増やしていき、将来的には各種手続などを円滑に行うために、組織化をめざす。

STEP 2

活動場所を選定する

- ・現地調査により、用水沿いや用水内で雑草が生い茂っている場所や荒れた場所などを把握する。
- ・用水内で水辺に近づくことが可能な場所は護岸工事が完了している箇所に限られるため、専門的な知識を持つ方の意見も踏まえて、活動場所を選定する。

- 専門家の助言・強力
- 管理団体との協議・調整

STEP 3

八条用水沿い：プランター設置運動を拡大する

- ・市や県の助成を活用して種や苗を準備し、用水沿いの歩道にプランターを設置する。
- ・設置されたプランターの手入れについては、用水の周辺に住む市民の方に協力を依頼する。

葛西用水内：草刈り・清掃活動によって親水空間を整備する

- ・用水の管理者と協議し、活動の許可を得る。
- ・住民が水辺近くまで降り、自然と触れ合うことができるように、用水内の除草や清掃活動を行う。
- ・草刈り・清掃活動は、円卓会議や町会・自治会等のネットワークを通じて協力者を募り実施する。
- ・年間を通じて用水内の環境を維持することは困難なため、水遊びの需要が高まる夏など、活動時期を絞り、継続的に実施する。
- ・他プロジェクトと連携し、整備された親水空間の活用を図る。

- 除草・清掃活動の協力者
- ポリ袋や軍手など活動備品の準備

STEP 4

用水沿いに新たな休憩所をつくる

- ・用水沿いを散歩した際に休憩できるような空間を新たに整備する。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1・植物の手入れは毎日行う必要があるため、このような活動を個人の趣味として楽しんでもらえる人を発掘することが最も重要である。
- STEP3・田植えの時期は水高が増すため用水内に入ることは難しく、活動時期は限られる。
- STEP3・水辺での釣り大会などが実施できるのでは！

08



テーマ：歴史・文化・自然

地区の生態系と触れ合い・学ぶ 屋外イベントの開催

プロジェクトの目的

地域の自然環境を知り、尊さを実感することで、地域のみどりを守っていくための価値観を育んでいく。また、屋外での活動を通して、子どもや子育て世代を中心とした地域内での多世代交流を図り、活動的でたくましい子どもを地域一丸となって育てていく。

プロジェクトの概要

子育て世代が中心となって、地区の自然や生態系と触れ合いながら、学ぶことができる屋外イベントを企画・開催する。地区の貴重な自然環境であるそうか公園・葛西用水・八条用水・農地を活用し、専門家や各分野のプロフェッショナルと連携して、楽しみながら親子で成長できる機会を生み出す。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 自然環境の調査と創出事業（そうか生きもの調査の実施）
- ◆ 「ふるさと草加学習」の推進

プロジェクトの全体像

STEP 1

子育て世代中心に活動体制を発足する

- ・円卓会議や、町会・自治会のネットワークを通じて、子育て世代が中心となって活動体制を発足する。
- ・活動が過度な負担にならないように、固定化した活動組織ではなく、サークルのようなゆるい集まりから活動を進めていく。

STEP 2

イベントを企画し、情報を発信する

- ・参加者が多く集まるような『魅力』や『インセンティブ』を考えて、イベント内容を企画する。
- ・年1回の開催や季節ごとの開催など、定例行事とすることで活動の定着を図る。
- ・イベントの内容に応じて、学識や釣りの達人など、各分野における専門家に協力を依頼する。
- ・町会・自治会の回覧やPTAに協力を依頼し、子どもと子育て世代をメインターゲットに、イベントの情報発信を行う。

● 釣りが得意な人（達人）

企画案①：葛西用水・八条用水を活用した釣り大会

- ・地区固有の貴重な自然である葛西用水・八条用水を活用することができる。
- ・地区には釣りを日頃の趣味としている方も多く、協力者を集めやすい。
- ・「07：葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり」によって整備された親水空間を生かすことができる。

● 生態系に詳しい専門家

企画案②：そうか公園を活用した植物・鳥・昆虫の生態系観察会

- ・そうか公園には多様な生態系が存在しており、日ごろからバードウォッチングや撮影を楽しむ人や、どんぐり拾いをする子どもたちが多くいる。地区の豊かな自然環境を、多くの子どもたちに知ってもらうことができる。
- ・「06：四季の移ろいが感じられる魅力的なそうか公園づくり」によって作成された植物のネームプレートを活用して、クイズ大会などもできる。
- ・イベントでは大学教授などの専門家に協力を依頼し、生態系に関するレクチャーを行ってほしい。

● 農地を所有する農家

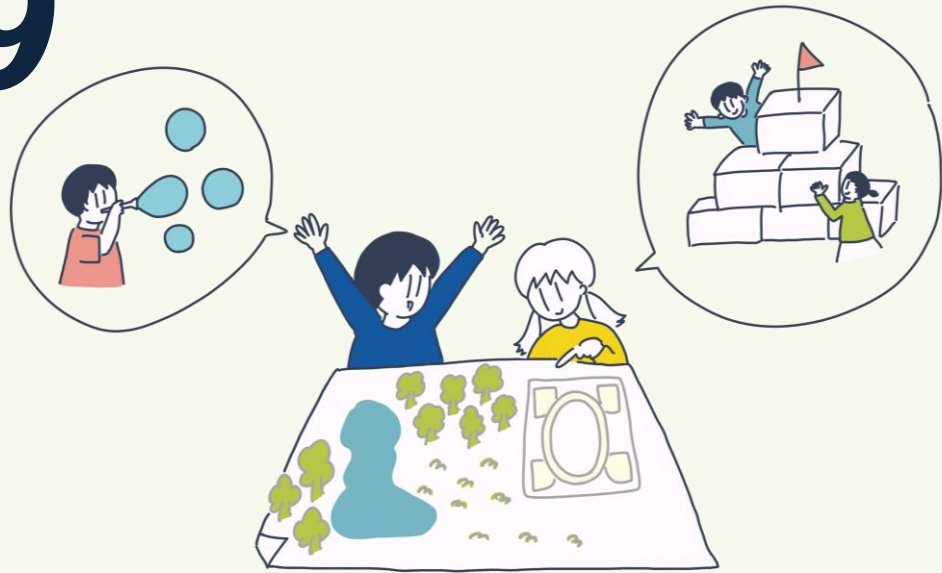
企画案③：遊休農地を活用した農業体験会

- ・仕事として使われている農地を活用してもらうことはハードルが高く、地区内に遊休農地も多くないが、季節によっては一時的に使用していない期間などに活用してもらうことを検討する。
- ・農業体験後にバーベキューを行うなど、参加者が一層楽しめる内容を検討する。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・とにかく人を集めることが難しい！活動の目的や意義をうまく伝えていくことが重要である。
- STEP2 ・情報発信の手助けは町会で協力できるが、参加者のとりまとめなどは難しい。情報を集約する方法を考える必要がある。
- STEP2 ・収支が合うような企画にしないと、継続していくことは難しい。
- STEP2 ・生態系保護協会と連携できるのではないかな。

09



テーマ：にぎわい・地域連携

そうか公園を地域のシンボルに！

プロジェクトの目的

地区のシンボリックな存在であるそうか公園の使い方を再考し、いつでも何かしらの活動やイベントが行われるにぎわいのある公園とすることで、子どもでにぎわい高齢者も過ごしやすい地区をめざす。特に、子ども達が自由な発想でのびのび遊べる環境づくりを重視する。キャッチフレーズは“地域住民がいつでも集まるシンボルパーク！”

プロジェクトの概要

そうか公園を子ども達が利用しやすく遊びやすい施設にするために、子ども達から「遊びたいこと」を聞き出し、その実現に向けて施設管理者との調整・遊びの企画を行う。また、そうした活動を進める中で公園利用のノウハウを集積し、施設利用者と施設管理者をつなぐ窓口となる団体を立ち上げ、活動を展開する。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 公園維持管理事業
- ◆ 市北東部スポーツ推進地区整備事業（柿木）

プロジェクトの全体像

STEP 1

○ 公園利用の際のルール確認

活動内容を明確化し、活動メンバーを集める

- ・円卓会議を通じて活動の中心メンバーと賛同者、市の担当課職員で、活動内容や進め方を確認する。
- ・運営に関わってもらいたい個人や団体への声掛け等により、活動メンバーを集める。例えば、大学のボランティアサークルや子ども会等、子どもとの関係が深い団体など。

STEP 2

○ 子ども関係の団体等への依頼・調整
● アンケートの準備

子ども達から「そうか公園で遊びたいこと」を聞き取る

- ・プロジェクトの目的である「子ども達が自由な発想でのびのび遊べる環境」を実現するために、まずは子ども達がどんな遊びを求めているか、生の声を聞き取る調査を行う。例えば、子どもが集まる場でのアンケート実施や、そうか公園で小さなイベントを実施し、その中で聞き取るなど。

STEP 3

○ 草加市みどり公園課・草加市スポーツ振興課との調整

「遊びたいこと」の実現に向けた企画と施設管理者との調整を進める

- ・子ども達から聞き取った内容を整理し、その中からいくつかの遊びを実現することをめざし、企画検討を進める。その際、市の担当課職員や施設管理者とも十分に調整を行う。
- ・企画検討を踏まえ、町会や関係団体等が協力して、そうか公園で遊びを実施する。
- ・この「STEP 3」を繰り返し実施する中で、公園利用のノウハウを集積する。

STEP 4

「(仮称) フリーパーク協議会」を立ち上げる

- ・STEP 3で集積したノウハウをもとに、施設利用者と施設管理者をつなぐ窓口機能と、施設利用の際の安全面を担保する「(仮称) フリーパーク協議会」を立ち上げる。それにより、手続や利用の際の施設管理者との調整が円滑になり、公園を利用するハードルが下がることで、みんなが利用しやすい公園になる。

そうか公園でのイベント情報や活動情報を一元化する

- ・現状は、そうか公園で実施されている活動やイベントの情報が一定の住民しか入手できないため、一元化して住民へ提供する方法を、「(仮称) フリーパーク協議会」の活動の中で検討する。例えば、ホームページや SNS 等を活用し、希望する団体等の活動やイベント情報を公開するなど。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP2・小学校に協力してもらえると、たくさんの「遊びたいこと」を聞き出せるかも！

STEP4・1週間のうち、特定の曜日を子どもに開放する日として、そこでは地域の大人が管理者となって、普段できない遊びができるようになると良い。

STEP4・フリーパーク協議会のメンバーを募る際は、参加することでのメリットを上手く伝える必要がある。

10



テーマ：にぎわい・地域連携

地域の個人や団体間で 情報交換やコラボができる場づくり

プロジェクトの目的

地区では個人や団体による様々な活動が展開されているが、お互いの活動や面識があまり無いことも多い状況である。そこで、知り合ったり、つながる場を作ったりすることにより、各々が抱えている課題の共有・解決方法の検討や情報交換等が進み、各々の活動の継続性が高まる。また、将来的にはこれまでには無かったコラボレーションによる活動も生み出される。

プロジェクトの概要

町会・自治会や地域の活動団体が中心となり、地区内で活動する多様な個人や団体が自由に情報や意見を交換する場「(仮称)地域活性化サロン」を作る。まずは、賛同する個人や団体が集まってスタートし、徐々に参加者を増やしながら場を定例化する。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 総合相談センター事業
- ◆ 公民館事業
- ◆ 地域福祉活動推進事業
- ◆ 総合福祉センターであいの森
- ◆ 町会・自治会活動促進事業
- ◆ ふれあい・いきいきサロン
- ◆ 商店街元気倍増事業

プロジェクトの全体像

STEP 1

- 若い人の意見も採り入れる
- ミーティングの会場

「情報交換やコラボができる場」について検討する

- ・まずは町会・自治会役員等が中心になり、賛同者と一緒に町会・自治会会館等で場づくりのためのミーティングを行い、若い世代を始めとする多世代が参加しやすい開催方法・場所・時間帯・雰囲気作り等を検討する。

STEP 2

- 周知チラシの作成

参加者・参加団体を募る

- ・地区内で活動する個人や団体等へ「情報交換やコラボができる場」の趣旨や内容を周知し、参加者を募集する。その際、趣旨や内容をわかりやすく掲載したチラシや、SNS (LINE 等) を活用して手軽に参加申込ができるようにするなど、周知の方法を工夫する。
- ・かしこまった場では参加者が集まりにくいいため、例えば「活動上の困りごとがあればお茶でも飲みながら話しませんか？」等、気軽に参加できるよう工夫する。
- ・地域の将来を担う若者に参加いただけるよう、積極的に声掛けを行う。

STEP 3

「情報交換やコラボができる場」をお試し開催する

- ・集まった個人や団体で、日頃の活動内容や活動上の悩み等、まずはテーマを決めずに雑談や情報交換から始め、お互いのことを知る。なお、状況に応じてテーマを決めて意見交換を実施する。
- ・人数によっては参加費制として、カフェや飲食店等で開催することも検討する。

STEP 4

- 定期開催のための運営資金

「(仮称) 地域活性化サロン」をつくり、定期開催する

- ・STEP 3 を踏まえ、場の名称を「(仮称) 地域活性化サロン」として、口コミや声掛け等により参加者を募りながら場を定例化していく。
- ・ある時は参加者がテーマを投げかけ、興味関心や専門知識がある個人や団体がそこへ参加する等、自由な形で発展していく。その中で、個人や団体間でのコラボレーションによる活動も生まれる。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

- STEP1 ・カフェ等のリラックスできる場所で開催できると、若い方も参加しやすいかも！
- STEP1 ・社会福祉協議会が実施しているサロンの雰囲気が参考になるかも！
- STEP2 ・大学生や町会など、周知に慣れている団体等に協力いただくと良いかも！
- STEP2 ・大学の研究室やサークルは、参加することで自分たちがやりたいことへの地域の協力を得ることができるため、その点は参加する大きなメリットになる。



テーマ：にぎわい・地域連携

地域で連携して自転車マナーの向上

プロジェクトの目的

草加市は交通事故が多い自治体であるため、子どもを始め幅広い世代を対象に自転車事故防止のための取組を実施することで、将来的に安全性の高い地域にしていく。まずは草加川柳地区が先進地区となり、地域主体で交通事故防止を啓発する取組を市内に拡大していく。

プロジェクトの概要

町会・自治会を始めとする地区内の団体が中心となり、交通安全に関する組織や団体等とも連携しながら「自転車マナー週間」を定め、自転車マナーを向上させるためのイベント等を実施します。また、自転車事故が多い場所や危険箇所を見える化・地図化し、地域の危険箇所を周知します。

▼ 行政の関わり・支援・関連する取組

- ◆ 交通安全推進事業
- ◆ 町会・自治会活動促進事業

プロジェクトの全体像

STEP 1

● 関係する組織や団体の協力

自転車マナー向上のための活動内容の明確化

- ・まずは町会・自治会役員等が中心になり、賛同者と一緒に活動の方針や実施体制等について検討する。例えば、「自転車事故ゼロ地区」というスローガンを掲げ、強化期間を決めて活動を展開するなど。
- ・市の関係課や警察など、協力や連携が必要な組織や団体等を整理し、呼びかける。

STEP 2

● 自治体等が所有するデータ

地区内の危険箇所を確認し、地域へ周知する

- ・既存のデータやまち歩き等による情報収集を踏まえ、地区内で自転車事故が多い場所や危険な箇所など、実態を把握する。情報収集の際は、自治体や公的機関が所有するデータを活用する。
- ・把握した情報は、見える化・地図化し、STEP 3以降の取組を始め、様々な場で地区住民へ周知する。

STEP 3

● 関係する組織や団体の協力
● イベントの企画・検討

自転車マナー啓発のためのイベントを実施する

- ・自転車マナーを啓発するイベントを実施する。その際、単発で開催する場合、参加者が集まらないことも想定されるため、地区内で開催される子どもが集まるイベントや活動等と同時開催又はブースを出店する形での実施を検討する。
- ・イベントは、身をもって自転車マナーの重要性が理解できるように、「人の命を大切に」「体験しながら学べる」「目で見て実感できる」等の視点を踏まえた内容とする。例えば、自転車事故の被害者と加害者の苦悩がイメージできる映像上映や、ゲーム形式で自転車マナーが学べる体験など。

自転車マナー週間を決めて対策を強化する

- ・「自転車マナー啓発のためのイベント」と並行して、町会・自治会で実施している下校見守り隊を参考に、地区独自で自転車マナー週間を決めて、交通安全のための活動を一部エリアで実施する。
- ・また、同期間には自転車事故防止を意識啓発する横断幕等も掲示する。

▼ 地区別懇談会であがったご意見・アイデア

STEP3 ・参加者に景品を用意できると集まりやすいかもしれない。

STEP3 ・すぐに解決できることではないため、何回も何回も繰り返し、継続的に取り組むことが大事！

IV プロジェクトの実現に向けて

1. プロジェクトを実現していくために
2. 実現のための話合いの場「円卓会議」
3. プロジェクトを実現していく 4つのポイント

1. プロジェクトを実現していくために

草加川柳地区のミライの実現に向けたプロジェクトはいかがでしたか？
 これらのプロジェクトを実践し、実現につなげていくためには、地域のみなさん一人ひとりの
 想いや、「こんなことがしてみたい」といった意欲、参加や協力が大切です。

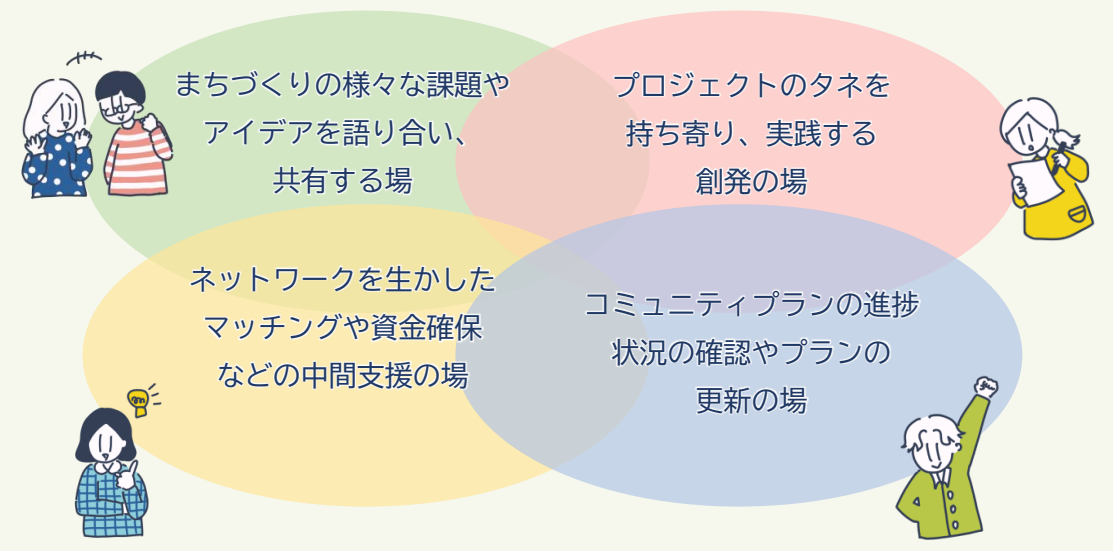
この章では、コミュニティプランを実現していく方法を、具体的に検討を進めるための話合い
 の場である「円卓会議」や、地区別懇談会の中で試行したモデルプロジェクトの例も交えなが
 ら、「4つのポイント」としてご紹介します。

2. 実現のための話合いの場「円卓会議」

コミュニティプラン作成に向けて地区別懇談会を開催し、地域のみなで話合いを重ねてきま
 した。今後は、地域のコミュニティをベースとした「円卓会議」を開催します。

円卓会議は、地区にお住まいの方や町会・自治会等の地域で活動されている方、行政、民間企業
 等、誰でも気軽に参加できる場であり、コミュニティプランを実践していくための体制として、
 多様なまちづくりの主体が緩やかに集まる自主組織の場として育てていきます。

💡円卓会議の主な役割は、課題やアイデアの共有、
 実践や創発、マッチングや中間支援、プランの確認や更新
 の4つが想定されています。



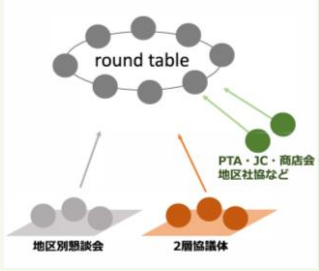
円卓会議を開催し、徐々に発展させていく流れとして、以下のような形が考えられます。

💡まずは気軽集まり、アイデアや課題を持ち寄るなどして緩やかに
 進めます。無理なく少しずつ体制を構築してい
 き各プロジェクトのマネジメントや持続的な発展をめざしていきます。

初動期
 成長期
 自立・発展期

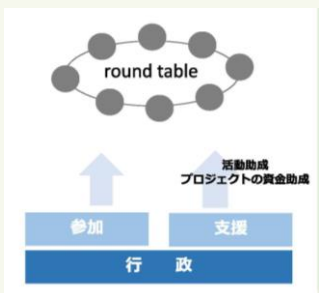
STEP1 誰でも気軽に参加できる場としての体制づくり

- コミュニティプランを着実に実践していくための持続的な体制として、地区別懇談会参加者を中心に地域の自主組織である「円卓会議」を立ち上げます。
- 立ち上げに向けて、様々な立場や属性の人達に参加を呼びかけます。
- 既に地区の中で活動している様々な協議会や活動団体で、円卓会議と連携できるものを整理・可視化して、地域のつながりの体系化・「見える化」をめざします。(将来的な円卓会議の自律性を重視して、創設期を除き、極力、市が事務局にはならないような体制をめざします。)



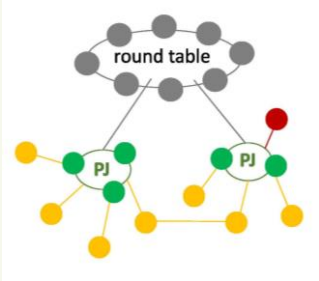
STEP2 情報共有・意見交換のための場づくり

- 小さくても体制が整い始めたら、円卓会議を開催し、プロジェクト推進について議論します。
- コミュニティプラン以外にも様々なまちづくりについて情報の交換・共有・議論をし、地区のよろず相談窓口としての役割もめざします。
- 円卓会議の一員として行政も参加し、会議の内容を庁内にフィードバックしたり、行政提案の課題を会議に持ち寄るなど連携を強めます。



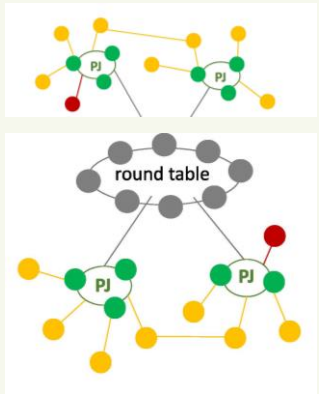
STEP3 各プロジェクトのマネジメント・進捗管理

- 円卓会議を戦略チームにして、各プロジェクトの緩やかなマネジメント、進捗管理をめざします。
- 各プロジェクトを管理し、プロジェクト内容に合った団体や人のマッチングを図ります。



STEP4 地域の緩やかな結節点としての会議の恒常的な継続

- プロジェクト・事業・団体の緩やかな結節点として円卓会議の恒常的な維持をめざします。(例) 議論の場、行政・地域の総合相談の窓口、コミプラの進捗管理、コミプラへのプロジェクトの追加・更新、団体・人のマッチング等
- 長く続けるためには、メンバーの入れ替わりによる良い変化(イノベーション)も必要のため、参加者は固定せず、円卓会議の出入りは自由とします。



市では、円卓会議の開催やコミュニティプランの実現に向けて、以下のような支援を行っています。また、5年ごとに達成状況などを評価し、プランを見直します。

支援項目	支援の内容(例)
ノウハウ・人材の支援	初動期の運営やプロジェクトの立ち上げの伴走支援、市民活動センターによる助言・技術支援や、まちづくりアドバイザーの派遣など
情報発信の支援	市が発行するまちづくりニュースや、広報そうか、市のホームページや公式SNSなどで情報を発信し、活動を広く周知
資金調達の支援	市の既存助成メニューの活用、国・県・民間等の支援メニューの整理と情報提供
円卓会議の推進に向けた支援	地区に存在する様々な協議会・活動団体などで、円卓会議と一体化できるもの、連携できるものを整理・体系化

“誰でも気軽に参加できる場”としての「円卓会議」

「円卓会議」という場を活用して、まずは気軽に集まり、一人ひとりの関心のあることや地域のことを語り合えるような場をみんなでめざしましょう。



【情報共有】

- # ケーキ屋さんできたよ # 工事始まるよ
- # 審議会委員募集中!

【地域の人との発見・交流の場】

- # こんな面白い人がいるんだ
- # ここには同じ想いの人がある

【仲間づくり・マッチングの場】

- # この人と連携して何かしたい
- # 手伝ってくれる人いないかな

【資金やノウハウ集め】

- # プラン遂行に係るお金の調達
- # こんな手法もあるらしいよ

【コミプラの遂行】

- # 新たな地域課題の解決プラン
- # 各プランの進捗報告や協力依頼

3. プロジェクトを実現していく4つのポイント

プロジェクトを実践し、活動を継続していくためには、一人ひとりの想いを生かしなが、具体的なアクションにつなげていくことが大切になります。

ここでは、そのためのポイントをご紹介します！

① 取組内容をPRして、仲間や協力の輪を広げよう

情報発信の方法は様々ですが、それぞれの特徴やメリットを踏まえて、プロジェクトの内容に合った効果的な方法で実施していきましょう。(46ページから紹介)

- 目的や対象に応じて、情報発信の方法を工夫しよう
- 無理なく継続的に発信していける体制を検討しよう



② 地域や行政の持つ資源を生かそう

地域にある様々な資源を発掘し、活動に生かしていきましょう。また、行政の関連事業や支援事業の活用も検討してみましょう。(48ページから紹介)

- 地域の資源を生かして活動しよう
- 行政や市社協等の事業や活動支援の制度・仕組みも活用しよう



③ プロジェクトを小さなことからでもお試してみよう

まずはできることやできそうなことを、地域の中で行っていきましょう。その成果や課題を踏まえて、プロジェクトの実現可能性を高めていきましょう。(49ページから紹介)

- まずはできること・できそうなことから始めてみよう
- 「お試し」で見えてきた成果や課題を次につなげよう



④ プロジェクトの活動を継続・発展させていこう

プロジェクトが立ち上がり、試行を経て本格的に動き始めたら、活動の継続や発展のために、「組織」「資金」「連携・協働」などのスキルも高めていきましょう。(50ページから紹介)

- 「組織力」「資金力」「連携・協働力」をつけていこう
- 「組織力」「資金力」「連携・協働力」の確認ポイント



4つのポイントの各ページでは、モデルプロジェクトでの実践例を「モデルプロジェクトではどうだった?」として紹介しています！

① 取組内容をPRして、仲間や協力の輪を広げよう

目的や対象に応じて、情報発信の方法を工夫しよう

プロジェクトの内容を地域の中で広く知ってもらうことは、仲間を増やしたり、活動を成長させたり、地域の中で協力や信頼を得ていくために重要なこととなります。

→ 主な情報発信の方法としては、右ページのようなものがあります。それぞれ特徴やメリットが異なるため、プロジェクトの内容に合った効果的な方法を実施していきましょう。

無理なく継続的に発信していける体制を検討しよう

周囲に活動を知ってもらうためには、継続的に発信していくことも大切になります。

→ 活動メンバーや協力者の得意なことやネットワークを生かした方法、発信する側に負担になり過ぎずに続けられそうな方法、といった視点でも検討してみましょう。

モデルプロジェクトではどうだった？



イベント周知のために、地域の回覧板やママ友同士の口コミ、公共施設や学校や保育園へのチラシ配布、身近な病院やスーパーなどでの掲示を、みんなで手分けして行いました。

地域の活動団体に協力いただき、団体が所有している既存の情報発信媒体（SNS）でも活動の周知を行いました。



主な情報の発信方法

▶ チラシ・ポスター

伝えたい対象者に合った内容・デザインでチラシやポスターを作成する

POINT! 地域の人々の目に触れやすい、地域の掲示板や公共施設などに掲示する

▶ SNS

Facebook、Twitter、Instagramなどを活用して情報を発信する

POINT! 活動日や活動内容をタイムリーに発信し、情報を随時更新していく

▶ 口コミ

メンバーを中心に、知り合い等を通じて、口コミで周知する

POINT! 活動の参加者など、様々な人を巻き込んで輪を広げて地域に浸透させる

▶ 地域での連携

地域の組織や活動団体等に情報発信に協力してもらう

POINT! プロジェクトの対象者と関連のある組織や団体を通じて情報発信を行う

(チラシの例)

モデルプロジェクトで作成したイベントの周知チラシ



② 地域や行政の持つ資源を生かそう

地域の資源を生かして活動しよう

プロジェクトを実現・発展させていく上では、関わるメンバーだけではなく、地域の人・場所・ネットワーク・情報等の様々な資源を発掘し、活動に生かしていくことも大切なポイントとなります。

→円卓会議等の場で使えるような資源をみんなで出し合ってみることや、チラシや SNS など広報を通じて協力者や必要とする支援・モノなどを呼びかけてみましょう。

行政や市社協等の事業や活動支援の制度・仕組みを活用しよう

草加川柳地区のミライの実現に向けたプロジェクトは様々な分野に関わるものがある一方で、行政や市社協等の事業でも、より良い地域づくりをめざして、分野ごとに様々な取組が行われています。

また、地域の活動を応援するための施策事業も実施されています。

→これらの視点から、自分たちの実現したいプロジェクトに関わりそうな施策事業や、活動のサポートを得られそうな制度・仕組みがないか、検討してみましょう。

モデルプロジェクトではどうだった？



子どもの遊び場に関するイベントを実施する際には、メンバーの知人で昔遊びなどの出し物が得意な団体に活躍してもらうように交渉し、実現しました。イベント開催の情報は、市の子育て情報サイトからも発信してもらいました。

地域の子ども関係の団体に声を掛けて、イベント当日のスタッフとして協力してもらいました。



関係する行政や社協等の事業

場所関係の事業

名称	事業等の概要
草加市空き家バンク制度	空き家や空き店舗の所有者で、売却や賃貸の希望がある人が空き家バンクに登録し、空き家を購入したい人や借りたい人に専用サイトを通じて情報を公開する制度 (担当：都市計画課)

人材関係の事業

草加市市民活動センター	市民の主体的なまちづくりを支援する施設。「市民活動センター使用登録団体・個人」には市内で活動する団体・個人が登録しており、活動情報は同センター内で確認できる (担当：市民活動センター)
草加市ボランティアセンター	地域でのボランティア活動に関心・意欲のある人を対象としたボランティア登録制度やボランティア活動の紹介等を行っている (担当：社会福祉協議会)
生活支援コーディネーター	高齢者の皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、市民や団体等とともに、話し合いの場（第1層・第2層の協議体）を設け、支え合いの地域づくりをめざして共に取り組む役割を担う (担当：社会福祉協議会)
子育て支援コーディネーター	子育てに関する様々な悩みや疑問についての情報提供や、必要に応じて適切な窓口へつなぐ役割を担う (担当：子育て支援センター)

助成金・活動の相談関係の事業

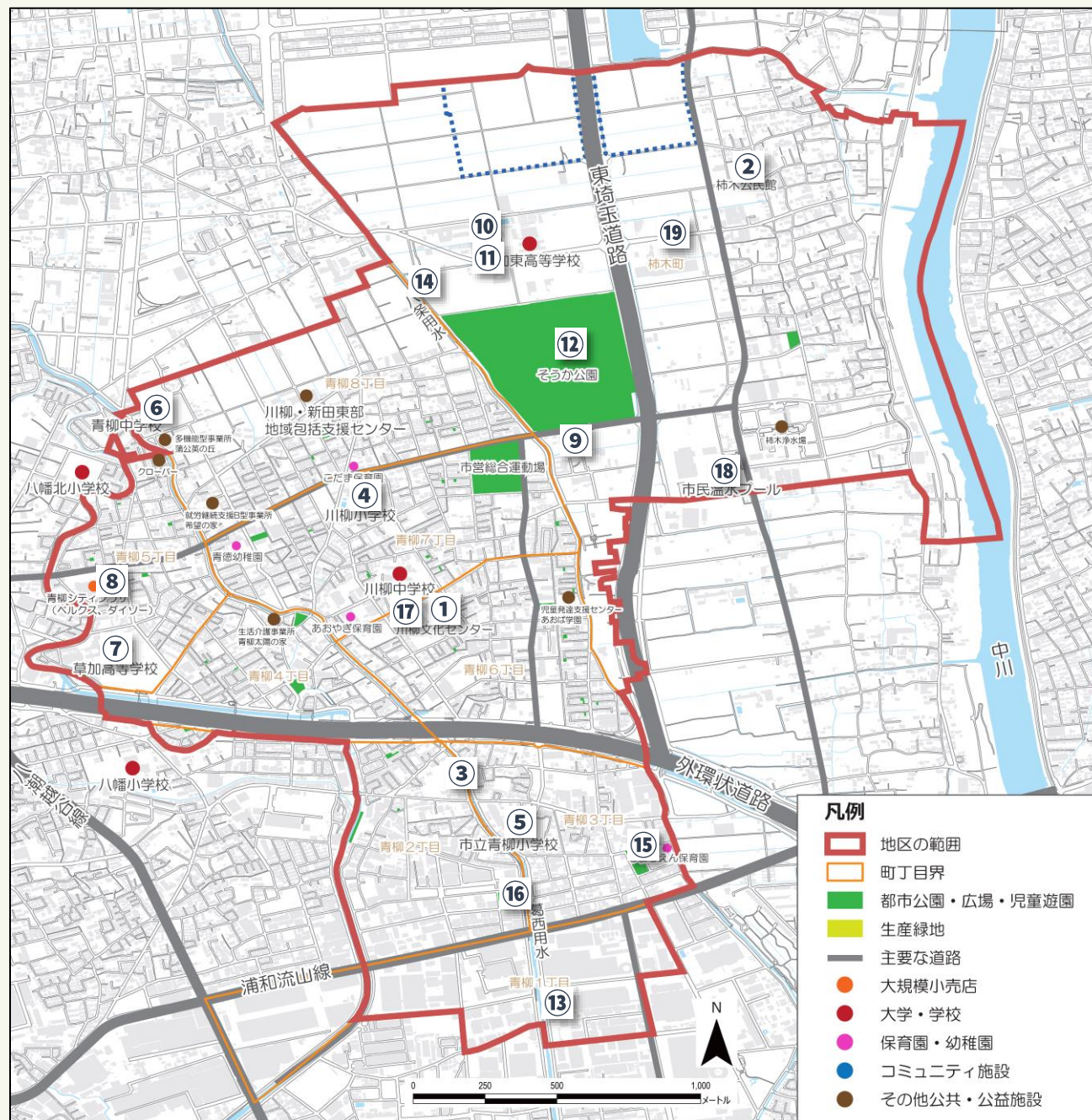
ふるさとまちづくり応援基金	草加市内で非営利で活動する団体に対する助成制度。「はじめよう部門」「そだてよう部門」「うごかそう部門」の3つの部門があり、公開審査会によって審査が行われる (担当：市民活動センター)
草加市まちづくりアドバイザー派遣制度	まちづくりアドバイザーを派遣し、景観づくりやまちづくりに関する指導・助言などを行う制度 (対象者・団体：地区景観づくり協議会、地区まちづくり協議会及び地域市民団体等) (担当：都市計画課)

情報発信の媒体

草加市役所 ホームページ	市内の様々な情報から市政情報まで、幅広く情報を掲載している市の公式サイト (担当：広報課)
まちづくりマッチング	地域活動を行う市民団体と、地域活動へ何らかの形で参加したいと考える事業者とがつながる場（マッチング）として、市民団体が抱える課題や提案等を掲載しているサイト (担当：市民活動センター)
そうか子育て応援・情報サイト「ぼっくるん」	市民で構成される運営委員会を中心にサイト運営を行い、子育て支援団体などで構成される「子育て応援隊」などの情報等を官民間問わず市民目線で子育てに関する情報発信を行っている (担当：子育て支援センター)

地域の資源（例）

下記の地図中の①～⑯は、地区別懇談会の中で参加者の皆さんからあがった「日ごろよく利用する場所」や「地域の活動」です。右ページには場所の名称や活動内容等を掲載しています。参考に見てみてください！



場所の名称・活動内容

- | | |
|--|---|
| <p>①川柳文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体の会議（町会、地区社協、ゴミ協など） 子ども食堂、青柳子ども会の活動 ボーイスカウトの活動 はつらつハルーン体操教室 | <p>⑪つばさの森、ひまわりの郷</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の相談 |
| <p>②柿木公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ボーイスカウトの活動 生涯学習の拠点・子どもクラブ活動 お祭り | <p>⑫そうか公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種運動（散歩、グラウンドゴルフ、テニス教室など） 地域のイベント（花火大会、盆踊り、お花見など） ボーイスカウト（自然観察、キャンプ、野外炊飯など） 老人会でウォーキング カフェ「にんじん」でおしゃべり |
| <p>③青柳志茂会館</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会活動の拠点 | <p>⑬葛西用水</p> <ul style="list-style-type: none"> 桜並木の草刈りと植栽 用水の清掃（年に2回程度） ウォーキングや犬の散歩、釣り |
| <p>④川柳小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所運営訓練 | <p>⑭八条用水</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキングや犬の散歩 |
| <p>⑤青柳小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域イベント（志茂まつりなど） 志茂町会で古紙回収 ナイターのグラウンドゴルフ | <p>⑮青柳東公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会活動、防災活動 |
| <p>⑥青柳中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所運営訓練 | <p>⑯青柳公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会で植物を植える活動 |
| <p>⑦草加高校</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA 活動 | <p>⑰青柳根郷ゲートボール場</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動等 |
| <p>⑧親子のひろばのびーすく</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの遊び場、育児相談 | <p>⑱市民温水プール</p> <ul style="list-style-type: none"> スイミング |
| <p>⑨草加市総合福祉センター であいの森</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の活動（カラオケ、フレイル予防など） ダンス教室、ストレッチ体操 | <p>⑲農地</p> <ul style="list-style-type: none"> 畑作業、野まわり |
| <p>⑩そよかぜの森</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉事業団による活動 | |

※地区別懇談会の参加者からあがった意見をもとに作成しています。地区内の全ての場所や活動を掲載しているわけではありません。

③ プロジェクトを小さなことからでもお試してみよう

✎ まずはできること・できそうなことから始めてみよう

プロジェクトを大きく育てていくためには、活動者や住んでいる人々のニーズや想いを踏まえて、実際に地域の中で活動と検証を繰り返すことで、地域のニーズや状況に合った形となり、実現可能性を高めていくことが重要です。

➡いきなり本格的な実現をめざすよりも、まずはできること、できそうなことから。

✎ 「お試し」で見えてきた成果や課題を次につなげよう

実際に試行を行なってみたら、その取組が一過性のもので終わらないよう、その成果や課題を振り返り、プロジェクトのあり方をバージョンアップさせていきましょう。

➡試行したからこそ見えてきたことをメンバーや関係者で振り返る機会を設けて、その検討結果を整理しましょう。また、振返りの材料となるよう、活動参加者へのアンケートや、試行前に仮説を立てた上で、実施結果を踏まえて検証すること等も有効です。

▼ プロジェクト試行のポイント

▶ 小さく・早く・安く (light, quick, cheap : LQC)

急に大きなことやお金のかかることをめざすのではなく、できる範囲で試行する
POINT! まずは小規模に、準備に時間や負担をかけ過ぎず、低予算で行ってみる

▶ 当日のボランティアや参加者の安全管理を想定する

初めての試みを行う上での、予期せぬケガや事故などに事前に想定し備えておく
POINT! イベント保険の加入を検討する

▶ 試行して終わりにならないようにする

試行した後は振り返りの機会を設けて、成果や課題を整理して次につなげる
POINT! 失敗も、挑戦したからこそその成果と前向きにとらえ、次の改善につなげる

モデルプロジェクトではどうだった？



実際に、地域の子ども食堂の開催日にあわせて、親子向けのイベントを開催しました！当日使う絵本やおもちゃなどの道具は図書館で借りたり、メンバーで持ち寄ったりして、お金をかけずに無理なくできる方法を工夫しました。

④ プロジェクトの活動を継続・発展させていこう

✎ 「組織力」「資金力」「連携・協働力」をつけていこう

プロジェクトが立ち上げの時期や試行を経て、本格的に動き始めたら、みんなの想いで立ち上げて取り組んできた活動を今後も継続・発展していけるよう、主に以下の3つの視点から、今後課題となりそうな点を洗い出し、対策を話し合ってみましょう。

▼ 「組織力」「資金力」「連携・協働力」の確認ポイント

「組織力」の確認ポイント

- メンバーや協力者に基本的な活動の趣旨や目的が共通理解として伝わっているか
- みんなそれぞれが役割分担をしていて、リーダー一人で背負っていないか
- 一方的な指示や上から目線の発言などがなく、互いに意見を尊重し聞いているか
- 自分の「できること」を生かして、助け合っているか
- メンバーが活動を楽しみ、喜びを感じる機会を設けているか

「資金力」の確認ポイント

- 活動の魅力をPRして、協力者やファンを増やしているか
- 活動に関わる経費の削減（場所やモノの支援を受けるなど）を工夫しているか
- 参加費や協賛金・寄附等から、資金を集められているか
- 助成金など、使えるような制度を検討・活用しているか

「連携・協働力」の確認ポイント

- コミュニティプランの他プロジェクト活動との連携を検討したか
- 地域の他の活動団体とのネットワークがあるか
- 行政等の関連組織・団体と、情報交換や相談の機会があるか

モデルプロジェクトではどうだった？



それぞれのやりたいことや得意なことを生かして役割分担をしました。また、自分達だけでは難しそうなことは、メンバーのネットワークを使って積極的に他の関連団体にも協力を依頼し、連携することで乗り越えられました。

V 市民と市の協働の まちづくりをめざして

1. プロジェクトに関連する市の施策・事業

1. プロジェクトに関連する市の施策・事業

Ⅲ章の各プロジェクトに関連する市の施策・事業の一覧を以下に掲載します。
プロジェクトを進める中で連携できる事業や、支援策等がございますので、お気軽にご相談ください。

施策・事業名	プロジェクト名 概要 所管課・室名	つながり・支え合い・居場所			歴史・文化・自然				にぎわい・地域連携			
		01 川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり	02 子ども食堂の活動を拡大してみんなの居場所にしよう	03 柿木町の区民館を活用した身近な居場所づくり	04 子どもが地域を学ぶ野菜づくりと収穫祭り体験	05 多世代による柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR	06 四季の移ろいを感じられる魅力的なそうか公園づくり	07 葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり	08 地区の生態系と触れ合い・学ぶ屋外イベントの開催	09 そうか公園を地域のシンボルに！	10 地域の個人や団体間で情報交換やコラボができる場づくり	11 地域で連携して自転車マナーの向上
男女共同参画社会推進・支援事業	性別にかかわらず誰もがその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に参画できる社会をめざして、市民及び各種団体との協働による講演会等を開催し、意識の高揚を図るとともに、女性の自立を図り、広範な社会参画を支援するための相談事業等を実施しています。 人権共生課		●									
町会・自治会活動促進事業	地域コミュニティの活性化を促進するため、町会・自治会への加入を促進しています。 みんなであちづくり課										●	●
商店街元気倍増事業	市内商店街等が実施する取組を支援し、商店街の活性化を目指します。 産業振興課			●							●	
中小企業振興事業	草加商工会議所と連携し、市内事業者の発展を目指します。 産業振興課											
都市農業育成・共生支援事業	地産地消をはじめとした魅力ある都市農業振興のため、市民農園及び庭先販売をPRするとともに、地場農産物のPR事業や庭先販売推進事業等を実施します。 都市農業振興課				●							
観光推進事業	観光資源をネットワーク化し、草加の魅力を広く市内外に情報発信するほか、本市を訪れた方々をもてなす仕組みづくりを進め、観光により本市のブランド力の向上を図り、多くの方々が訪れるまちを目指します。 文化観光課					●						
市北東部スポーツ推進地区整備事業（柿木）	「スポーツを通じた健康づくり」の拠点として位置づけられている市北東部で、「新屋外スポーツ施設」の整備に向けた取組を実施します。スポーツ推進地区では、スポーツを通じた健康づくり促進のために、そうか公園の北西部にスポーツ機能の立地をめざします。 スポーツ施設整備室										●	
地域福祉活動推進事業	・地域生活課題を抱える市民及びその世帯に対する支援体制並びに地域住民による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備します。 ・既存の社会参加に向けた支援では対応できないニーズに対応するため、地域の社会資源などを活用・創出し、社会とのつながりづくりに向けた支援を行います。世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備等を検討し、既存の居場所では対応できない場合は創出します。 福祉政策課	●	●	●								●

施策・事業名	プロジェクト名 概要 所管課・室名	つながり・支え合い・居場所			歴史・文化・自然					にぎわい・地域連携		
		01 川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり	02 子ども食堂の活動を拡大してみんなの居場所にしよう	03 柿木町の区民館を活用した身近な居場所づくり	04 子どもが地域を学ぶ野菜づくりと収穫祭り体験	05 多世代による柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR	06 四季の移ろいを感じられる魅力的なそうか公園づくり	07 葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり	08 地区の生態系と触れ合い・学ぶ屋外イベントの開催	09 そうか公園を地域のシンボルに！	10 地域の個人や団体間で情報交換やコラボができる場づくり	11 地域で連携して自転車マナーの向上
ふれあい・いきいきサロン	歩いて行ける身近な場所で、住民の方々が気軽集える仲間づくりの場が「ふれあい・いきいきサロン」です。社会福祉協議会では、高齢者や子育て中の方、障がいのある方などが「気軽に・無理なく・楽しく・自由」に集えるサロンづくりを応援しています。			●							●	
生活支援体制整備事業	生活支援コーディネーターを配置し、地域住民、団体等とともに、高齢者の皆さんが地域で暮らし続けるための支え合いの地域づくりについて話し合いの場を設けています。市全体の話し合いの場として第1層協議体、各地域の話し合いの場として第2層の協議体を設置しています。			●								
介護予防把握事業	閉じこもり等の生活機能低下があると思われる方を把握し、介護予防事業等につなげます。			●								
認知症サポーター養成講座	認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かく見守る応援者を養成する講座です。			●								
オレンジカフェ（認知症カフェ）	認知症に関心のある人誰もが集うことができ、お茶を飲みながら気軽に話ができる場です。			●								
総合福祉センターであいの森	市唯一の総合福祉センターとして、高齢者や障がい者が自分らしく心豊かな生活を営めるよう、福祉サービス等の提供や、教養・運動講座の開催やサークル活動の育成等を行っています。		●	●							●	
子育て支援講座	子育て中の保護者や子育て支援団体等の支援者を対象に、子育てからくるストレスや不安の軽減を図ること、子育て支援者の育成と連携を図るために開催している講座です。	●	●									
総合相談センター事業	子育て支援の拠点として、子育てに係る総合的な相談や情報提供を行い、子育てに関する不安を軽減する。そして、子育て支援団体等の育成及び支援や子育て支援ネットワークの推進で子育て支援の充実を図ります。	●	●		●					●	●	
交通安全推進事業	交通事故を減少させ、安全な交通環境の確保を図るため、交通安全に係る各教室や街頭活動を実施し、交通安全意識の高揚及び交通事故の防止に努めています。											●
自然環境の調査と創出事業	本市に生息・生育する動植物について、市民参加によるそうか生きもの調査を実施しています。						●		●			

施策・事業名	プロジェクト名 概要 所管課・室名	つながり・支え合い・居場所			歴史・文化・自然					にぎわい・地域連携		
		01 川柳文化センター等の身近な施設・場所を活用した子どもやママ・パパ、多世代の交流の場づくり	02 子ども食堂の活動を拡大してみんなの居場所にしよう	03 柿木町の区民館を活用した身近な居場所づくり	04 子どもが地域を学ぶ野菜づくりと収穫祭り体験	05 多世代による柿木町の神社仏閣等の歴史資源のPR	06 四季の移ろいが感じられる魅力的なそうか公園づくり	07 葛西用水・八条用水の自然と触れ合える環境づくり	08 地区の生態系と触れ合い・学ぶ屋外イベントの開催	09 そうか公園を地域のシンボルに！	10 地域の個人や団体間で情報交換やコラボができる場づくり	11 地域で連携して自転車マナーの向上
自然環境の調査と創出事業	葛西用水に生息する絶滅危惧種キタミソウの保全に努めています。 環境課							●				
都市計画マスタープラン事業	地区別懇談会を実施し、地域の方向士の交流やまちづくりへの参加のきっかけづくり、地域のまちづくりに関する意識啓発などを行っています。 都市計画課		●					●				
空き家バンク	宅地建物取引業協会埼玉東支部等と連携し、空き家バンクの運営を行っています。また、空き家バンクについては草加市ホームページ等を通して情報提供を行っています。 都市計画課		●									
公園維持管理事業	市内の公園の安全性を確保し、安全かつ潤いのある憩いの場として利用していただくよう維持管理を行っています。 みどり公園課							●	●			
緑化推進事業	地域コミュニティ形成の場として期待される地域による緑化活動への支援と活動団体の増加をめざす。 みどり公園課							●	●			
学校応援団	学校、家庭、地域全体で子どもを育てるため、学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織です。 子ども教育連携推進室	●										
こどもひなんじょ	不審者等による犯罪の危険があった際、子どもたちが駆け込むことのできる避難先として「こどもひなんじょ」を設置しています。協力家庭・事業所は「こどもひなんじょ」の看板を掲示しています。 子ども教育連携推進室	●										
「ふるさと草加学習」の推進	子どもたちがふるさと草加のよさを知り、愛着や誇りをもてるように、市立小中学校で「総合的な学習の時間」の授業を中心に「ふるさと草加学習」を行っています。地域や家庭とも連携しながら充実した授業が実施できるよう支援しています。 子ども教育連携推進室							●		●		
公民館事業	柿木公民館・川柳文化センター等の維持管理を行っています。 生涯学習課	●	●	●							●	
文化遺産の発掘・保存・有効活用推進事業	指定・未指定を問わず、先人によって守り伝えられてきた文化財が、後代に正しく継承されていくため、「草加市文化財保護指針」の三つの柱（文化財保護意識の高揚、文化財保護体制の確立、文化財保護施設の整備）に基づき、これら文化財等の調査、研究、有効活用に向けた取組を推進します。 生涯学習課							●				